

学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立 福泉中央小学校
校長 西村 正樹

中学校区におけるめざす子ども像 豊かな心で人と協力し、将来の夢の実現に向けて努力する子ども		校長 西村 正樹
令和6年度 重点目標 本校教育目標「心豊かに 認め合い 高め合う 子どもの育成」 ～子どもが行きたい 親が通わせたい 教師が働きたい学校づくり～ ①「チーム力」を生かした学力の向上 ②人権尊重を基盤にした豊かな心の育成 ③健やかでたくましい子の育成 ④「つながる教育」「ひろがる教育」の推進		
「確かな学び」の現状 児童の基本的学習習慣が確立されるとともに基礎学力の定着が図られてきている数年間である。しかし、基礎的な学習を身に付けている児童が多いが、根拠を持って自分の考えを表現する力などの活用力に課題が見られるのも事実である。今後、自らが学習を進められるような力や考えを伝える力を育成する中、既習の知識を活用することの良さを感じられるように取むことで、学習につながりを持てるように組んでいきたい。また、「確かな学び」を進めるためには、児童一人ひとりの状況を理解し、全員が参加できるような授業改善に取り組む必要がある。	「豊かな心・健やかな体」の現状 「豊かな心」において、人権尊重を基盤にした豊かな心の育成をめざしている中、いじめを絶対に許さない姿勢の浸透、そして「は・あ・と」（はきものをそろえる・あいさつを自ら行う・友だちを大切にする）も定着し、「思いやり」「心遣い」の意識付けができています。また「健やかな体」については、新しい取り組みにも挑戦し、コロナ後のあり方に変えてきたことで、運動に親しむことはできた。引き続き、体力向上に向けて体育的活動の充実をはかっていく。	

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	学力の向上	自主学習を授業内容と綿密につなげ、家庭学習の一層の定着をめざす。	授業の振り返りを大切にし、考える力や書く力、伝える力、問題解決力を育成する。	児童の肯定回答率90%	学校教育アンケート	年度末	○	おおむね予定通り進んでいる。	○	学校アンケート(児童)において授業が分かりやすいと答えている児童が91%となっており、授業や家庭学習で取り組んできた内容が成果を出していると考えられる。	○	「はがき新聞」や「中央学びんピック」は、いい取り組みである。授業改善については先生の個性も大事にしながら今後も続けてほしい。
			「はがき新聞」や「中央学びんピック」を通じ、児童のやる気と家庭学習の質の向上をめざす。	優秀作品掲示や金賞銀賞等での表彰。	実践報告	随時	◎	どちらも定着している様子がうかがえる。	○		○	
	授業改善	タブレット(パソコン)を活用した主体的な学習を習慣化する。	「子どもが考える授業」から「子どもが自ら学びを進める授業」にむけ【個別最適な学び】と【共同的な学びの一体化】をめざす。	「学校は授業の工夫を通じて考える力をつけようとしている」85%	学校教育アンケート	年度末	△	一斉指導のスタイルからの脱却ができいていない場面がある。 アンケート結果 78.8%	△	学校アンケートで78.8%となっており、今後も改善の余地があると考えている。今後、子どもが自ら学ぶ授業へ向けて研修を進めていく必要があると考える。一人一台パソコンの活用に関しては、今後も推進していく。ノート指導では、可能な限り児童の考えにコメントを残し意欲につなげようとしている。	△	友だちや先生が上手に話すのを聞くだけでなく、他の子どものノートを読むなどして、いいところ探しをしたりする方法などに取り組めないか。ノート指導は窮乏してくれているので継続してほしい。タブレットは使い方が大事であり、「使うことありき」で進まないようにしてほしい。
			児童一人1台のパソコンを使用し、低学年では調べ学習を中心に、高学年ではプレゼンテーションの資料作りや発表などを行う。	自ら学びに向かう姿勢と主体的な学習と発表ができている。	実施状況	随時 年度末	△	パソコンを使用している場面は多く見受けられるが、十分に活用できている場面は少なく感じる。	○		○	
			根拠を示した自分の考えとともに相手の考えも尊重できる場面づくりと問題解決学習。	ノートに「根拠に基づいた自分の考え」を書いている。	実施状況	随時 年度末	○	おおむね予定通り進んでいる。	◎		◎	
	豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	・「いじめ防止・早期発見」に向けた組織的な取組と、絶対にいじめを許さない集団づくりを行う。 ・違いを認め仲間を大切に「思いやり・心遣い」のできる子どもを育てる。	●子どもの小さな変化を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。	アンケートを基にした児童理解と継続的な確認。	学校生活アンケート	随時 年度末	◎	いじめの早期発見と早期解決、未然防止に対して組織的に対応できている。	◎	いじめ防止に関しては、早期発見と早期解決、未然防止に組織的に対応できた。「思いやり・心遣い」の気持ちを理解しようとする態度を育てようとする」の項目では76.5%(保護者)であり目標を下回った。「は・あ・と」の定着に関しては、改善の余地があると考えている。	◎
★道徳の授業や体験学習を通じて、正しい人権感覚と知識をもって判断・行動できるように豊かな人権感覚を培う。				「学校は思いやりの心や相手の気持ちを理解しようとする態度を育てようとしている」85%	学校教育アンケート	年度末	△	実践はしている、不十分な場面も見られる。 アンケート結果 76.5%	△		△	
★時と場をわきまえて、進んで挨拶をする。 ●「は・あ・と」の徹底。				「学校はあいさつや返事をできるように取り組んでいる」85%	学校教育アンケート	随時 年度末	○	定着してきているがさらなる徹底が求められる。アンケート結果 80.7%	○		○	
体力向上		健康安全について理解を深め、運動に親しむ環境を整える。	保健指導(命の授業を含む)を継続・充実させ、自らの体と健康について考える力を育てる。	命の授業実施後の感想等聞き取り。	実施状況	随時 年度末	◎	ゲストティーチャーに依頼し4～6年で「いのちの授業」を実施している。	◎	・保健指導については「がん教育」や「いのちの授業」「感染予防」など計画通りに実施することができた。 ・なわとびチャレンジなどを実施することができた。	◎	いのちの授業は発達段階に応じた内容であったり、LGBTQなどの内容も考えながらできている。中学校へのつながりも継続して欲しい。
			体育の活動内容の改善とスポーツテストの実施。運動量を適切に確保する授業や取組の工夫。	「小学校体育指導の手引き」の積極的な活用状況。	実施状況	随時 年度末	○	おおむね予定通り進んでいる。	○		○	
地域協働		信頼される学校	地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」のもと、地域・家庭との連携を密にする。小中一貫教育の充実をはかるためのランドデザインの共有。	学校だより、学年だより、ホームページを活用し、学校・家庭・地域の協働体制づくりを進めるとともに積極的な発信に努める。	「ホームページ等の広報活動は十分である」肯定回答率90%	ホームページ閲覧数 学校教育アンケート	年度末	○	おおむね予定通り進んでいる。 アンケート結果 88.3%	○	・年間を通じ、HPやtetoruを活用し情報発信することができ、HPの閲覧数は伸びた。 ・ゲストティーチャーやふくふく祭りなどで、学校外の方の協力したり、多くの方と交流したりすることができた。	○
	幅広い地域人材や保護者等の参画と、児童が地域に出ていく等、積極的な交流をめざす。			各種行事での地域人材参加状況と保護者や地域の方からのご意見等	実施状況 学校協議会	随時	◎	地域の方をゲストティーチャーに来てもらったり、地域行事に参加したりしている。	◎		◎	
校長より(年度末)								学校関係者評価者から(年度末)				
コロナ後の授業づくりの面では、まだまだ工夫、改善の余地があると考えている。学校群や学びのコンパスの授業づくりが進む中で、今後も授業づくりの研修に取り組み、子どもたちが将来活躍できるような力をつけていきたい。また、「中央学びんピック」や「はがき新聞」は成果が出ているので継続していきたい。「地域協働」では、地域の方にも協力いただき、取り組みを進めることができた。								地域の学校として、地域人材を活用したり、行事を行うなど、総じて、一年間、おおむね良好に取り組んでいただいた。今後も継続してほしい。				